

議会を傍聴してみませんか？

市議会は3月、6月、9月、12月に開催しており、どなたでも傍聴することができます。また、事前連絡も不要です。
傍聴をご希望の方は、議会開催日に市役所2階の傍聴受付までお越しください。

次の定例会は**5月29日（月）**

午前10時00分 開会予定です。◆受付時間 午前9時30分～

6月定例会の会期日程（予定）

月 日	会 議	内 容
5月29日（月）	本会議	議案の提案と説明など
6月 1日（木）	本会議	一般質問（1日目）
2日（金）	本会議	一般質問（2日目）
5日（月）	委員会	各常任委員会
6日（火）	委員会	〃
9日（金）	委員会	予算決算常任委員会
16日（金）	本会議	議案の採決など

※日程は予定日となるため、変更となる場合があります。



傍聴席は30席です

編集後記

温かい春が訪れ新年度となり、皆様、様々な場面で環境変化があったのではないのでしょうか？
私達の生活様式を一変させた新型コロナウイルス感染症の法上の位置付けがいよいよ5月8日（月）から2類相当から5類へと移行します。これに伴い外出等の制限、患者登録・健康観察がなくなり、治療費に自己負担が生じる等の変更が生じます。まだまだ感染には十分に留意する必要があると思います。が、従来のように制限なく、市

議会だより編集委員
委員長 瀬庭大輔
副委員長 横山和雄
委員 山中宣明
委員 根岸利宗

（横山）

Y o u T u b e

配信やってます！

YouTube 相馬市議会
チャンネル



パソコンやタブレット、
スマートフォンからも
ご覧いただけます。



<https://www.youtube.com/channel/UCTpl1YDq5DKU2Oqt49cbe8g>

ご意見・お問い合わせ：相馬市議会事務局 ☎ 0244-37-2177 Eメール gikai-jimu@city.soma.lg.jp

海外移住するつもりが 相馬にUターン！

今号ではそうま移住・定住総合窓口開設に伴い、相馬にUターンして活躍している若者を特集いたします。デザインの力で地域を活性化、相馬の地域にデザインを学ぶ場を創ることが夢!! 名古屋の菓子メーカーでデザイナーとして活躍後、相馬市にUターンし活躍する遠藤智哉さん(33歳)にUターンの経緯と現在の仕事について伺いました。

Q 相馬ではいつまで
過ごしましたか？

中村第一中学校を卒業後、デザインの勉強がしたく名取市にある宮城高専(現・仙台高専)情報デザイン科に進学し電車通学をしていました。通常高専は5年で卒業ですが、私は高専3年修了後、グラフィックデザインを学ぶ為、山形市にある東北芸術工科大学に進学し、山形市に移りました。

Q 大学卒業後、名古屋の菓子
メーカーに就職したそう
ですが、その経緯は？

私が興味のあるデザインを作っている会社をネットやSNSなどで調べて、就活していました。私が働きたいと思った会社がたまたま名古屋で菓子メーカーだったんです。採用が決まり、名古屋へ移りました。働く場所にこだわりはなかったですね。

Q 相馬へUターン
された理由を
教えてください。

正直言いますと、相馬に戻るつもりはまったくなかったんですね(笑)。実は、海外へ移住を計画していて、英語を学びながら仕事をしようかと。その準備のため、退社したらコロナが拡大して、海外へ行けず退社もしていたので宙ぶらりんな状態で…。それで相馬へ戻ってきたんです。媒体によっては独立し地元に戻り、地域に貢献したいって思いで…って話したりもしますが(笑)、海外移住を目論んだが、コロナウイルス拡大によって相馬に戻ってきたのが理由です。

Q Uターンされた当初の
ことを教えてください。

相馬に戻ってきて2ヶ月経った頃に、友人を通じて「浜の駅 松川浦」の看板デザインの話があり、参加することになりました。その後、自分のデザインが採用されたのが、はじまりです。学生、会社員時代は相馬に帰省した時は同級生や同世代の人としか接する機会がなかったんですが、浜の駅の看板デザインをきっかけに、漁師さん、農家さん、建設・飲食経営者など様々な職種・年代の方と交流ができました。

会社名 chitose design lab
遠藤 智哉

相馬市出身。名古屋でお菓子会社のデザイナーとして約8年勤務した後、2020年4月に相馬市で独立。浜の駅の看板や、「おびすや」の佃煮のデザインを手掛け現在に至る。

Q 相馬に戻ってきて
思うことはありま
すか？

人との繋がりが広がるなかで自分の知らない魅力ある「そうま」や「ひと」がこんなにもたくさんあることに気づきました。今思うと学生時代は相馬、この地域に対して好きでも嫌いでもない、関心がなかったと思います。それは知る機会が少なかったのかと思います。こどもたちにも、デザインについて知ってもらい機会を作っていければと思いますし、自分のデザインを通して「そうま」を、「ひと」をもっと発信出来れば楽しいことが出来るんじゃないかなって思います。

